

農 Cafe@八王子—クールな農業を広めよう！—

杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 木暮ゼミナール（2年）

原 拓海 比留間 亜美 鈴木 沙和 菊池 彩乃

指導教員 木暮 健太郎

キーワード：農 cafe・地産地消・若手農家・農業従事者の高齢化

<要約>

現在、農業はさまざまな問題を抱えている。とくに、後継者不足は深刻で、若者の都市部への流出、働く人の高齢化による人材不足などにより、農家に従事する人の6割以上が65歳を超えている。しかし農業にはまだまだ知られていない魅力が沢山ある。そこで私たちは、八王子市で先端的な農業に取り組む人たちやその生産物を広め、若い人たちとの交流の場を提供するために、「農 Cafe@八王子」を提案したい。

1. はじめに

農家の割合が減少した背景には、働く人の高齢化が原因の一つである。日本の農家における高齢化は深刻で、農家として働く人の6割以上が65歳以上といわれている。平均年齢は実に68.5歳である。

さらに後継者不足もあり、日々の作業を高齢者自らがやっている割合も非常に多いのが農家の現状である。

一方、日本人は食の安全製に対して非常に高い意識を持っている。国内産の農作物には厳しい検査が行われ、農家もこれを通過するために努力を続けている。輸入される農作物にも厳しいチェックが行われているが、日本人は国内産農作物に感じるほどの安心を海外食品から感じることは難しい。

しかし食料自給率が激減して海外から食品を輸入せざるを得なくなれば、多少の安全性

を犠牲にしても量を確保しなければならないときが来るかもしれない。食料自給率は食の安全にも関係する問題である。持続可能な農業は日本にとって重要な課題の一つである。

2. 現状

『農業白書』によれば、全国の販売農家約132万戸のうち、若手農家は約14万戸。この数字だけ見れば、全体に締める若手農家の割合は1割弱程度に過ぎない。ところが、経営耕地面積で換算すると、全体の約36%に当たる104万9376ヘクタールの作付が若手農家の手によるものだという。若手農家の規模は着実に拡大している。

一方、規模拡大にともなって不足するのは労働力である。近年、新規就農者の数も増加傾向にあるが、それでも後継者不足に悩む農

家は多い。農場従事者の高齢化が進む八王子においても、若手後継者の発掘は必要になるだろう。

3. 提案

私たちは、日本の農業を維持するためにも、まず、若い世代に農業の魅力を知ってもらうことが重要だと考えた。そこで提案するのは、八王子市にある空き家をリノベーションして「農 Cafe」にするというアイデアである。

農 Cafe とは、明確な定義があるわけではないが、新鮮な地元野菜を提供する飲食店であり、生産者との交流の場ともなりうる新しいスタイルのコミュニティ・スペースである。

写真1 山梨県笛吹市の「農 Cafe hakari」



<https://tokuhain.arukikata.co.jp/hokuto/2018/05/hakari.html>

農 Cafe を通じて、定期的なイベントを開催し、「農業」に対して、若者が興味を持ち気軽に足を運んでもらえる空間作りにしたいと考えた。

写真2 山梨県笛吹市の「農 Cafe hakari」



<https://tokuhain.arukikata.co.jp/hokuto/2018/05/hakari.html>

①FIO（㈱アンドファームユギ）との連携

八王子を拠点に、野菜の生産から販売、体験サービスなど幅広い活動を展開しているのが「フィオ」(FIO) である。メンバーは10代～30代の新規就農者たちであり、八王子を「農のある地域」として定着させることを目指している。私たちは、フィオからのサポートを受け、八王子の農業を若い人たちに知ってもらうプロジェクトを提案したいと考えている。

②交流会@農 Cafe

フィオをはじめ、若手農家と一緒に農業の現状や、取り組みについて交流する場を設けたい。実際に農家の人たちの話を聞くことによって、人々が持つ農業に対するイメージを変えて欲しいからである。また、農作業体験の募集なども、この場を通じて行いたい。若手農家の話を聞き、農業を体験することによって、農業のやりがい、達成感を感じることができる。こうした活動を通じて、農業の魅力を広めていきたいと考えている。